



# FINAL NIGHT

**R18**  
ADULT ONLY

**Huutendo**

**by Heusken**



蒼旗が去ったあとも赤緒の屈辱の時間は続いた。

簡易的な衣服を着せられ、再びハマドに犯されるのをただ孤独に待つ日々。

完全なる敗北。

それは誰の助けも来ないという現実、そしてこの絶望的な時間が果てしなく続いていく事を意味していた。



再び始まった悪夢の時間。  
ハマドの口が押し付けられ、分厚く  
熱い舌が赤緒の口内で蠢く。

ハマドは赤緒の体を力強く抱き寄せて、  
暴れないように固定する。  
本来は両兵の身体、華奢な赤緒では  
到底抵抗できるものではなかった。



赤緒の豊満な胸はハマドの劣情を刺激するには十分な魅力を持っていた。湧き上がる加虐心も相まって、ハマドはその大きな実りを力一杯に揉みしだく。美しく大きな双丘の形が崩れる程に強く揉まれ、無茶苦茶にされる。その度に起こる熱い感覚を、赤緒は口を結んで堪えていた。この男を喜ばせるような事は絶対にしないと…



ハマドは赤緒の胸を揉みながら、その先端を口に含み、強く吸った。赤緒の乳首を舐め、吸り、噛み、そして引っ張る。

ハマドの唾液が漏れ出て、赤緒の胸を垂れていく。

痛みさえ感じるハマドの責めに、赤緒は耐えながらも、その呼気はだんだんと熱くなっていった。



憔悴した赤緒にもハマドは容赦しなかった。  
力なく横たわる赤緒に、ハマドは自らの剛直を挿し込む。  
何度目かもわからない熱い感覚。嫌悪感とは裏腹に、既に何度も味わった感覚を赤緒の身体は覚えてしまっていた。  
赤緒は繰り返されるハマドの激しい動きに、ただ身を委ねる事しか出来なかった。



赤緒の意識は必死に抵抗していた。だが身体はハマドの言いなりになりつつあった。ハマドが「跨れ」と言えばそうした。「動け」と言えば、赤緒はハマドの上で激しく動いた。ハマドが腰を強く打ち付ける度に、赤緒は激しく喘いだ。





ハマドに乱暴に犯され気を失い、目を覚ましてまた犯される。それがひたすらに繰り返された。シバが戻ってくると、そこにあったのは、恥部から精液を溢れさせて横たわる赤緒の姿だった。

傍らに立つハマドと共に、シバは不気味な笑みを浮かべて、堕ちた赤緒を見下ろしていた。




シバの目的は赤緒を身籠らせる事だったが、それはもはや確実なものとなった。

妊娠した赤緒は特殊な装置で拘束された。この装置は赤緒の胎児を強制的に成長させるものだったが、それには激しい苦痛を伴う。

この苦しみは赤緒をさらなる絶望へと突き落とすものだった。



数ヵ月後。  
赤緒の腹は大きく膨れ、出産はもうすぐだった。  
ここまで何とか耐えてきた赤緒であったが、もう精神的にも肉体的にも限界だった。それでも最後の力を振り絞って出産に抵抗する。  
しかし器具により無理やり性器を固定された状態では、その抵抗も無駄に終わる事は明らかだった。



赤緒の抵抗も虚しく、出産は完了した。  
生まれた赤子はすぐにシバに取りあげられ、別の場所で隔離された。

数日後、  
赤子を抱いたシバが赤緒の前に現れた。  
これが最後とばかりに、シバは赤緒に赤子を見せつける。  
呪われた子、邪悪な道へと堕とされるのは明らかだ。  
しかしそんな我が子の姿を、赤緒はただ虚ろな目で見つめる事しか出来なかった。



## おまけ

前回あった碟にされる赤緒さんが個人的には少々納得できない部分があったので、今回描き直してみました。

いやはや、可哀そうだけど、赤緒さんにはこういうポーズがよく似合うなあ！

# あとがき

お久しぶりです！ ヒュースケンです！  
この度はお手に取っていただきありがとうございます  
ございます。

今回も前回に引き続いての赤緒さん本の第二  
弾でございます。

コミケのサークル参加も二回目となりますが、  
まだまだ慣れない事ばかりで悪戦苦闘してお  
ります。

思えばコミケは一般参加しかしていなかった  
頃からサークル参加をするようになるまで、  
あっという間に感じられる出来事でした。

今回の赤緒さん本は前回の続きですが、もう少  
し続きます。

暑くなったり寒くなったり、なかなか落ち着か  
ない日が続きますが、皆様の健康を祈りまして  
終わりたいと思います。

本当にありがとうございました！！

- ・発行 : 風転堂
- ・著者 : ヒュースケン
- ・印刷所 : 有限会社ねこのしっぽ
- ・発行日 : 2024/08/12
  
- ・twitter(X) : @steam\_erobou
- ・連絡先 : yamato.1945.ts9@gmail.com